

### (3) 北 関 東



北関東地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は改善している。

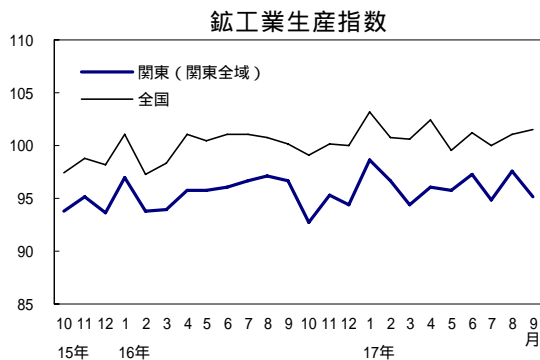
#### 前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 17 年 8 月)	今回 (平成 17 年 11 月)	
住宅建設	増加	おおむね横ばい	

#### 1. 生産及び企業動向

##### (1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。(関東全域)

一般機械は、半導体製造装置が国内外向けに堅調であったことなどから、3 四半期連続で増加した。化学は、石油化学品製造用触媒が低下したものの、化粧品が堅調であったことなどにより、おおむね横ばいとなった。輸送機械は、法令改正による駆け込み需要の影響がみられた鋼船の反動や自動車車体の生産移管などの影響により、2 四半期連続で減少した。情報通信機械は、携帯電話が新製品の端境期で減少したことなどにより、2 四半期連続で減少した。電気機械は、リチウムイオン蓄電池がアジア向けに堅調であったことなどにより、2 四半期連続で上昇した。



- (備考) 1. 12年=100、季節調整値。  
2. 平成17年9月の関東は速報値。

##### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

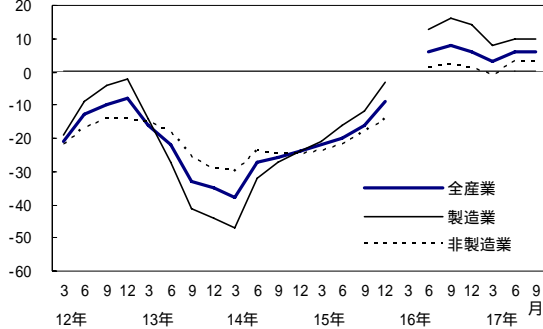
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
一般機械	13.8	1.7	1.0	0.3	0.1
化学	13.7	0.6	0.6	0.8	3.3
輸送機械	11.3	4.2	9.8	4.0	11.7
情報通信機械	8.6	6.4	5.9	0.0	3.1
電気機械	7.9	5.7	2.5	1.2	3.7
鉱工業	100.0	0.2	0.4	0.7	1.5

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。  
2. 7~9月期は速報値。  
3. 7~9月期の化学の生産、出荷については、7月、8月  
確報値の平均より算出。在庫については、8月確報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が横ばいとなっており、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。

#### 企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

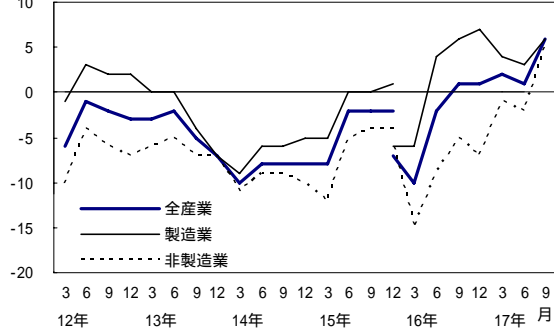
(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。

旧基準は15年12月まで。新基準は16年6月から。  
関東全域(新潟県を含む)

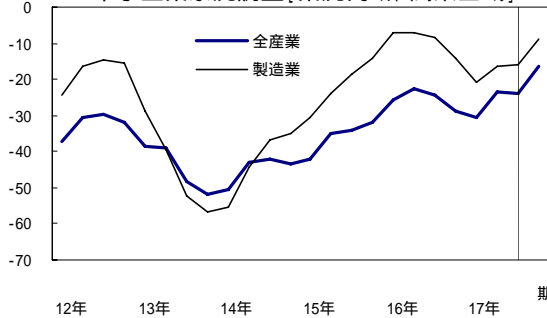
(%ポイント)企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。

15年12月は新・旧基準を併記。  
旧基準は関東全域、新基準は日本銀行前橋支店管内。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断、関東全域]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。17年 期は見通し。

#### 景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

「取引先の一つで新製品の生産が始まり、受注も増えてきたが、他の取引先は相変わらず在庫調整で受注ゼロである(電気機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 17年度の設備投資は前年度を上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

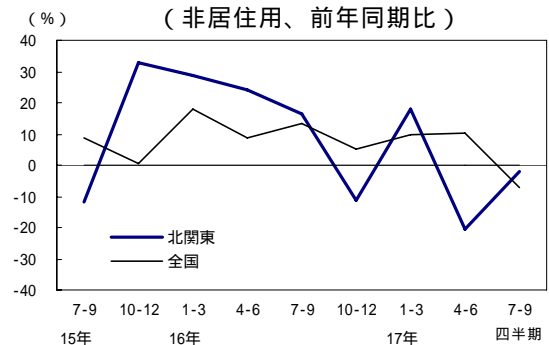
(前年度比、%)

	16年度実績	17年度計画
全産業	18.5	8.5( 2.1)
製造業	22.8	1.9( 3.1)
非製造業	11.5	20.5( 0.6)

(備考)( )は前回(6月)調査比修正率。

調査対象は日本銀行前橋支店管内。

建築着工床面積  
(非居住用、前年同期比)



(3) 北関東

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

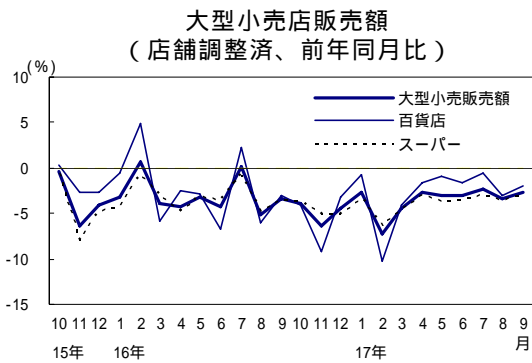
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、7月は、クリアランスセールの効果から衣料品や身の回り品などが好調であったが、飲食料品が伸び悩んだことなどにより、全体では前年を下回った。8月は、猛暑で夏物衣料が好調であった昨年の反動などにより、主力の衣料品が伸び悩んだことから、引き続き前年を下回った。9月は、催事効果などにより身の回り品に動きがみられたが、衣料品や飲食料品が伸び悩んだことから、14か月連続で前年を下回った。

スーパーは、米や野菜の相場安により期を通じて主力の飲食料品が伸び悩んだことから、前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

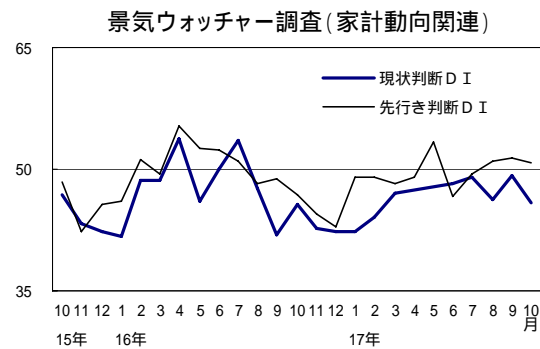
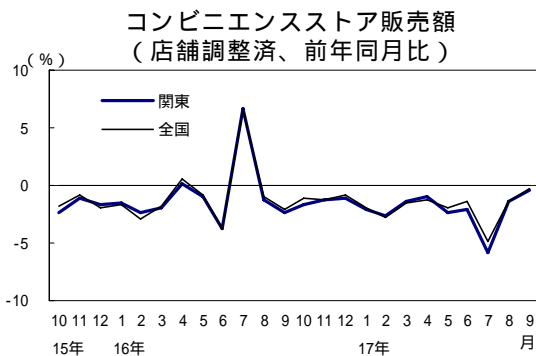
「客は高齢者が多いので、少しの雨、風、冷え具合で人の動きが悪くなっている。品物の相場が下がってきており、全体的に購買力も少ない(一般小売店[精肉])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	16年10-12月	17年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	4.9	4.7	2.9	2.8
百貨店	5.3	4.7	1.4	1.7
スーパー	4.7	4.7	3.4	3.2
コンビニ	1.3	2.1	1.8	2.6
景気ウォッチャー	43.5	44.4	47.8	48.2

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。17年7-9月期は速報値。コンビニは関東全域。

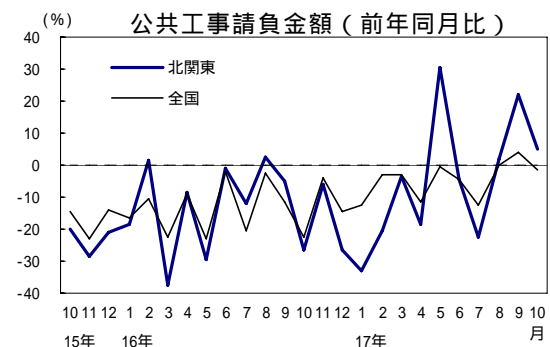
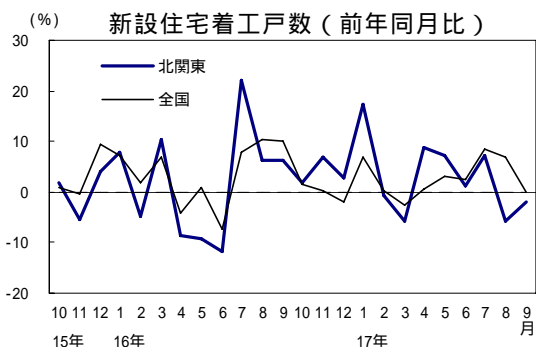
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設はおおむね横ばいとなっている。

分譲、貸家が前年を上回ったものの、持家が下回ったことから、全体ではおおむね横ばいとなっている。

(3) 公共投資は17年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

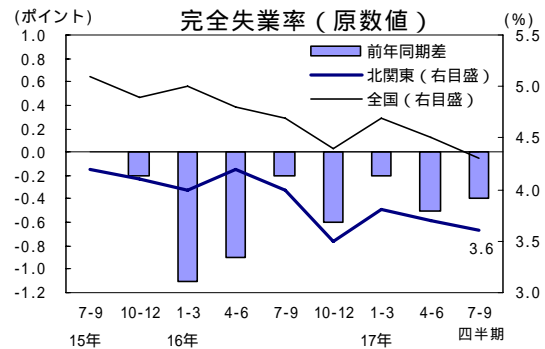
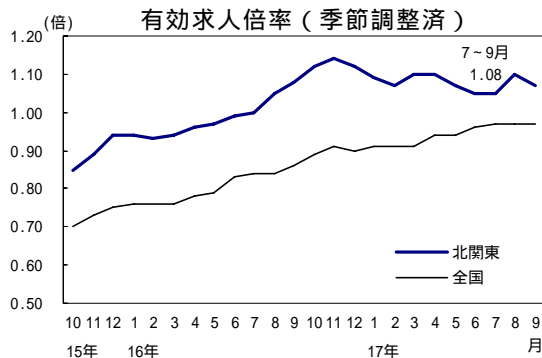


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（10月）[雇用関連（現状）]

「求人数は横ばいの状況で推移している。求職者も、希望する条件の仕事に就けないことから、条件を大きく変更し、とりあえず就職に至る事例もあるが、その場合、職務内容や条件等に不満を持ち、在職中に再度求職の申込をするケースも多い（職業安定所）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

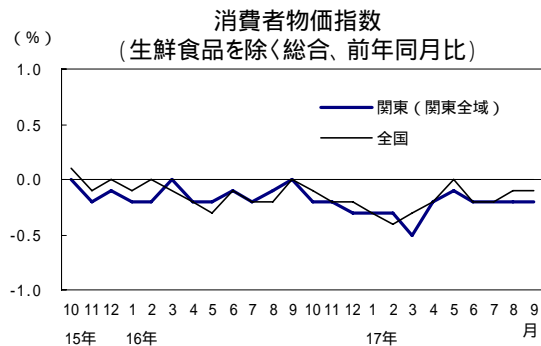
(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

10月に件数、負債総額ともに大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は下落幅がおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	16年10-12月	17年1-3月	4-6月	7-9月	17年10月
倒産件数	156	165	166	150	59
(前年比)	9.3	6.3	6.4	7.1	28.3
負債総額	967	1,007	883	760	357
(前年比)	41.4	30.2	44.1	24.4	293.7



景気ウォッチャー調査（10月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・スーパー等とは違ったコンビニらしい品ぞろえを強化したことで、雑貨や菓子、加工食品が伸びてきている（コンビニ）

<先行き>

・人の行動にも忙しさが出てきており、残業も増えている。何よりも、工場に活気が出てきたことが嬉しい（化学工業）

景気ウォッチャー調査（合計）

